



恩寵をもたらす宇宙の魂より
熱の力が私を満たしますように
この熱は人間存在を
貫く生命
あたかも
広き広き宇宙を貫く
神の生命のごとく

ルドルフ・シュタイナー、マントラの言葉、GA 268

医学セクション レントブリーフ

2025年聖霊降臨祭



4月、アダム・ブラニングとマリオン・デーブス氏も参加して、オーストラリアのウォランウッドにてアントロポゾフィー医学会議が開催されました(写真左)。多くの同僚にとって重要な、これからの道を開くような出会いとなりました。基調テーマは「アントロポゾフィー医学を通じて治癒の力をもたらすこと(Bringing Healing Forces through Anthroposophic Medicine)」でした。またアダム・ブラニングは同じく4月、ニュージーランドのヘイスティンクスで開催された第4回コリスコ会議「大いなる期待(Great Expectations)」にも、主要講演者の一人として参加しました。この会議には、さまざまな治療・教育の活動分野から275名の専門家たちが集まりました(写真中央および右)。

親愛なる同僚の皆様、親愛なる友人の皆様！

今年、2025年にはルドルフ・シュタイナーの没後100年を記念する祝祭が、世界各地で行われ、そして今も続いています。まるでシュタイナーの生涯の業績に対する計り知れない感謝の思いが地球全体に広がっているかのようです。ゲーテアヌムの今日では12を数える部門の創設に結実したシュタイナーの働きがなければ、私たちの国際的な医療共同体も、そこから生まれた多様な運命的出会いや、医療施設、そして数々のイニシアティブも存在しなかったことでしょう。それらの関係は、血縁や国籍といった背景から生まれたのではなく、真の援助を患者にもたらしたいという共通の精神的努力から、自由な

意志により築かれたものです。私たちの医学の中で、常に新たな形で実現され続けるアントロポゾフィーという共通の精神の光がなければ、私たち一人ひとりの——そして私たちの患者たちの——個人的な運命、そして職業的な運命はまったく異なるものとなっていたでしょう。多くの道は、出会うことなく、あるいはまったく異なる形で交差していたに違いありません。12部門の活動は血液のようにゲーテアヌムという心臓に合流し、そこから再び世界へと脈打つように広がっていきます。世界各地にはそれぞれの職業に根ざした12の共同体が受肉し、教育、農業、芸術、

自然科学といった多様な生活領域において、アントロポゾフィーの実現に取り組んでいます。12の部門がそれぞれの専門性にもとづいて実りある協働を行うとき、霊的共同体形成のいっそう高次な形が生まれ、それによって一つの部門が単独で取り組む場合よりも、さらに有効なしかたで、現代の人類文明が直面する困難な状況に文化創造的かつ治癒的に働きかけることができます。そのように職業を横断した、しかも霊的かつ専門的な協働の実現こそ、ルドルフ・シュタイナーが未来に託した大きな希望でした。この願いを受けて、2025年の今年、ゲーテアヌムで開催される聖霊降臨祭会議は、12のすべての部門によって共同で構成され、相互のつながりの中から個々の寄与がなされます。医学セクションからの寄与は、自然科学部門との対話の中で展開される予定であり、その主題は「生命の探究」です。CRISPR-Cas技術やデジタル生物学の時代にあつて、いかにして〈生命性〉の科学を、そして新たなく〈エーテル性〉の医学を築いていくことができるのか」という問いは、きわめて大きく、切実なものです。

マリオン・デーブスは、特にエーテル体の諸プロセスに独特の作用をもたらす分子医学の可能性と限界に光を当てます。この背景のもとに見たとき、「治癒」とは何なのでしょう？ それは本当に「治癒的」なのでしょう？ 続いてトーマス・ハルトムートが、マイクロバイーム研究における認識の限界について取り上げます。マイクロバイームと人間の心との関連はどのように説明できるのでしょうか？ 代謝の過程で生成される神経伝達物質は、果たしてその問いに対する納得のいく答えとなりうるのでしょうか？ 「生命」とは何なのでしょう？

マティアス・ラングは、物理学の境界領域に取り組んでいます。そこでも私たちは、物質に対する理解と分析能力の限界に到達しています。その地点から、どのようにして「生きているもの」の問いに近づいていくことができるのでしょうか？ 彼の同僚であるヴェスナ・フォルシュトネリチ・レスヤクは、ゲーテ主義との深い結びつきから、厳密な観察、事物のつながりや関連の認識を示します。

最後に、カーリン・ミヒャエルが「心臓思考の器官としての新しいエーテル心臓」について語ります。自然科学とゲーテ主義によって培われた私たちの認識能力によって、生命プロセスやや霊的=本質的なものの認識へとさらなる一步を踏み出すことは、いかにして可能になるのでしょうか？ 思考・知覚器官としての〈エーテル心臓〉は、現在、発達の上にあります。今日、すべての人々はすでに、唯物論的自然科学が認めようとしない多くのものを知覚しています。どのようにしてこの新しい知覚や認識から、未来のための新しい〈科学〉を創り上げられるのでしょうか？ そして、医学における困難な倫理的問題のような「境界の問い」は、超人的な(あるいは没人間的な!?)人工知能によってよりも、心臓によってよりよく答えられるのでしょうか？ リズムとは、すなわち生命です。リズム系の中心器官である心臓によって、私たちは生命と治癒の秘密を、新たに探究することができるのでしょうか？

「…このリズム秩序は全自然の中に存在しています。植物では葉が一枚ずつリズムをもって成長します。花びらもリズムをもって配列されます。すべてがリズムをもって秩序づけられているのです。病気の際には発熱がリズムをもって起こり、またひいていきます。全生命はリズムの中にあるのです。」(ルドルフ・シュタイナーGA184)

この聖霊降臨祭会議で、皆様の多くとお会いできることを願っております。魂を高める、光に満ちた聖霊降臨祭の時を過ごされますよう、心よりお祈りいたします。

カーリン・ミヒャエル、マリオン・デーブス、アダム・ブラニング

お知らせ



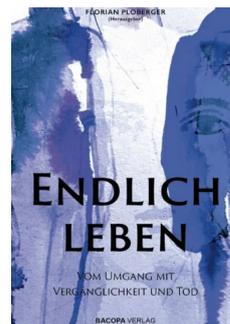
「**医術拡張の基礎づけ—未来の力としての治癒の力**」:2025年9月9日～14日、ゲーテアヌムにて開催される国際医学セクション年次会議へようこそ！ ルドルフ・シュタイナーは、生涯の最期の日々にいたるまで、イタ・ヴェークマンとともに『**医術拡張の基礎づけ**』(GA27、『**アントロポゾフィー医学の本質**』)の完成に取り組みました。今日、世界各地で治療に携わる活動グループが、この本を集中的に学んでいます。医学に対する真に画期的な新しい観点、特に人間の生命機構(エーテル体)に関する記述を通して、本書の内容は、未来の医学のための新しいたな基盤を私たちに与えてくれます。その医学は、治癒の力を支えることで、治癒の力それ自体が人間とその進化にとって〈未来の力〉となることを目指すのです。現代のどの医学体系も、私たちの生体内に働く力と作用を、これほど精緻に描き出してはいません。この医学体系をより深く理解し、さらに発展させていくこと—それを次回年次会議の主題としたいと思います。医学セクションの共同代表およびIKAMのメンバーは、皆様のご参加、共同作業、専門的・社会的な交流、そして喜びに満ちた出会いを楽しみにしております！プログラムとお申し込みは追ってお知らせいたします。<https://goetheanum.ch/en/events/jk25>.

アダム・ブラニング医師と**ローラ・スカッパティッチ**によるポッドキャスト:「**病の理解への目覚め** (Awakening our Understanding of Illness)—出版100年を迎える『**医術拡張の基礎づけ**』」このポッドキャストは、全5回を予定しているシリーズの第1回目で、医師のアダム・ブラニングと、コーチ/メディア専門家であるローラ・スカッパティッチが、『**精神科学的認識による医術拡張の基礎づけ**』(GA27)の第1章、第3章、第5章、第7章、第14章を取り上げて語り合います。二人は、標準化され、プロトコルに基づく現代医学が抱える課題と、それに対して、医師・患者・病気の三者の関係性を通して開かれる可能性とを探究します。また、治療における〈エーテル的生命力〉の意味、さらにアントロポゾフィー医学におけるイマジネーション・インスピレーション・インテュイションの概念についても深く掘り下げます。ぜひお聞きください。<https://feeds.transistor.fm/extending-the-art-of-healing-through-anthroposophy>.

光—言語: “朝露の瑞々しさ” **Lichtung – Sprache: Taufrisch** 第3期(2026～2027年)開始日2026年2月6日:「**Taufrisch**(朝露の瑞々しさ)」は、スイス・アーレスハイムで開催される、医師、心理士、療法士、学生、関心のある方々を対象とした職業随伴言語造形療法(Therapeutische Sprachgestaltung)の研修コースです。この講座は、GAÄD(ドイツ・アントロポゾフィー医師協会)およびVAOAS(スイス・アントロポゾフィー医師協会)により認定されています。診断および治療プロセスに即して、姿勢、呼吸、声、明瞭な発音、思考、言語感覚に関する7つのモジュールを、2年間にわたって学びます。また、具体的な実践課題、感覚の訓練、自らの話し方を磨くトレーニングも含まれています。詳細・お申し込み: www.lichtung-sprache.com.

その他の最新情報や興味深いニュースも、私たちの新しいウェブサイトのトップページをご覧ください: <https://medicalsection.goetheanum.ch/>.

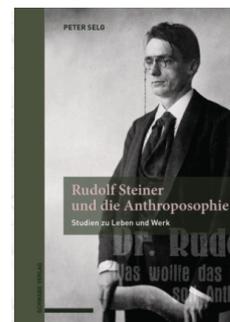
お勧めの文献



Florian Ploberger (Ed.): **Endlich leben. Vom Umgang mit Vergänglichkeit und Tod**, Schiedlerberg 2025.

フロリアン・プロベルガー(編):『**ついに生きる — 過ぎゆくものと死に向き合う**』(シュールドベルク、2025年)

この論文集は、死への準備と死後の生について、さまざまな霊的伝統の観点を交えながら探究しています。ピム・ファン・ロメルといった著名な執筆者に加えて、私たちの同僚ヨハネス・ヴィンツィルも「すべては種子—病、死、誕生が織りなす時間の二重の流れ」という寄稿で参加しています。本書の他のテキストでも、ルドルフ・シュタイナーの思想がたびたび参照されています。

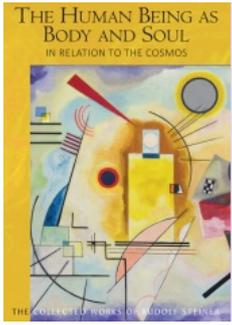


Peter Selg: **Rudolf Steiner und die Anthroposophie. Studien zu Leben und Werk**, Basel, Berlin 2025.

ペーター・ゼルグ:『**ルドルフ・シュタイナーとアントロポゾフィー—その生涯と業績に関する研究**』(バーゼル/ベルリン、2025年)

本書は一方ではルドルフ・シュタイナーの伝記を、彼の活動の学術的な節目と主要な人生の段階において紹介し、他方では第一次世界大戦後にシュタイナーが展開したさまざまなイニシアティブについて解説しています。特に、彼が中立国スイスに拠点を置く精神科学自由大学(ゲー

テアヌム)の創設に尽力し、そこから人間的なインパルスを多様な生活領域へと送り出そうとしたかが描かれています。



Rudolf Steiner: The Human Being as Body and Soul in Relation to the Cosmos. CW 205, Forest Row 2025.

ルドルフ・シュタイナー:『宇宙との関係における身体と魂としての人間存在』(GA205、フォレスト・ロウ、2025年)

この荘厳な連続講義では、三重の人間存在、すなわち身体(頭・心臓・手)、魂(思考・感情・意志)、霊(覚醒・夢・睡眠)について語られます。こうしたホリスティックな概念は、現代における深刻な分極化、二元的対立の危機に挑むものです。挑戦を投げかけます。一方には〈死んだ思考〉によって地上に縛りつけられるアーリマン性があり、他方には〈幻想的な状態〉へと引き上げられてしまうウルシファー性があります。ルドルフ・シュタイナーは言います—どのような文脈においても、両者の間の〈均衡をもたらす力〉、キリスト存在を見出すことが課題である、と。

2025年の催し

6月3日:「電磁波と人間の生体への影響」スイス・ドルナッハのゲーテアヌムにて対面開催、およびオンライン・ライブ配信(ドイツ語)によるイベント。講師はこの分野の専門家ペーター・ヘンジンガー氏。詳細情報およびZoomリンク: <https://medsektion.goetheanum.ch/nachrichten/mobilfunkstrahlung>

6月6日~9日:「各部門における自由大学 — 未来の文明に向けたルドルフ・シュタイナーの精神的インパルス」スイス・ドルナッハ、ゲーテアヌム、マリオン・デブス、クリスティアーネ・ハイト、カーリン・ミヒャエル、ペーター・ゼルク、ヤン・ゲツシエル ほか。プログラムと申込: https://goetheanum.ch/en/events/whitsun_2025

6月12日~14日:リズム・マッサージ療法 国際シンポジウム(チェコ・プラハ)。テーマ、講師、参加申込: <https://t1p.de/jue8l>

6月20日~22日:司牧医学会議「…カルマにおいて無秩序にいたったものが、秩序へともたらされるために」スイス・ドルナッハ、ゲーテアヌム。対象:医師、医学生、司祭、司祭養成ゼミナールの学生。講師:ジョアン・トルンスキー、マリオン・デブス、カーリン・ミヒャエル、マティアス・ギルケ、ミヒャエラ・グレックラール ほか。プログラムと申込: <https://medsektion.goetheanum.ch/veranstaltungen/pastoralmedizin-2>

2025年6月28・29日 および 10月25・26日:What the Case Histories Can Teach Us – 100 years of the book “Fundamentals of Therapy”, online teaching presentation with Adam Blanning, in English, with translation to German, Spanish and Mandarin.

「症例から何を学ぶことができるのか — 『医術拡張の基礎づけ』出版100年記念」講師:アダム・ブラニング。オンライン講義(英語)、ドイツ語・スペイン語・中国語への通訳付。参加申込と詳細は開催数週間前に公開予定。 <https://medicalsection.goetheanum.ch/events>

7月15日~21日:第5回キリスト衝動セミナー5to. Seminario de Impulsos Crísticos en Ruiz de Montoya/ AR. “El desafío del ser humano con el mal”, con la participación como conferencistas de Michaela Glöckler, João Torunsky y Claudia McKeen. Programa e inscripción: <https://t1p.de/m2onp>

7月30日~8月2日:Indonesia Anthroposophy Conference “No one left behind: Towards sustainable individual and community wellbeing” in Bandung/ ID. With Michaela Glöcker and Joean Oon.インドネシア・アントロポゾフィー会議「誰一人取り残さない—持続可能な個人とコミュニティのウェルビーイングに向けて」インドネシア・バンドン。講師:ミヒャエラ・グレックラール、ジョアン・オン。詳細は近日公開予定。

8月6日~10日: “The Arc of Becoming: Medical and Pedagogical Support in the First Phase of Life” 「生成のアーチ — 人生の初期における医療と教育の支援」(英語開催/アメリカ・ニューヨーク州スプリングバレー)北米の医学セクションと教育セクションによる共同企画されました。プログラムと申込: <https://t1p.de/x8jll>

8月16日~23日: Medical Section Summer School 2025 in Emerson College, Forest Row / UK. 2025年 医学セクション・サマースクール。イギリス・フォレストロウ、エマーソン・カレッジ。詳細と申込: <https://calendar.emerson.org.uk/events/medical-section-summer-school-2025/>

9月5日~8日: Teach The Teachers “Freedom and Destiny: Exploring them through Clinical Cases and Biographical Questions”. (教師のための研修)「自由と運命 — 臨床症例とバイオグラフィーを通しての探究」言語: 英語。詳細は近日公開予定。 <https://medicalsection.goetheanum.ch/events/teach-the-teachers>

9月9日~14日: 医学セクション国際年次会議「医術拡張の基礎づけ — 未来の力としての治癒の力」スイス・ドルナッハ、ゲーテアヌム。プログラムと申込は近日公開予定。 <https://goetheanum.ch/en/events/jk25>

10月4日より: English Training in Anthroposophic Medicine in 9 modules until September 2027. Based in the East Sussex / UK, open to doctors worldwide. With Michael Evans, James Dyson, Marion Debus, Matthias Girke, Anna Hubbard and David Martin. アントロポゾフィー医学 英語によるトレーニングコース(全9モジュール)2027年9月まで継続予定。イギリス・イーストサセックスを拠点に、世界中の医師を対象として開催。講師:マイケル・エヴァンス、ジェームズ・ダイソン、マリオン・デブス、マティアス・ギルケ、アンナ・ハバード、デイヴィッド・マーティン。詳細情報:www.emerson.org.uk/anthroposophic-medicine

10月15日～18日: 言語造形療法・演劇療法国際専門会議。スイス・ドルナッハ、ゲーテアヌム。詳細は近日公開予定: <https://medicalsection.goetheanum.ch/events>

10月18日～21日: 学校医・幼稚園医のための国際研修教育講座。スイス・ドルナッハ、ゲーテアヌム。詳細:<https://medicalsection.goetheanum.ch/events/schulaerztetagung-2>

25./26. Oktober: What the Case Histories Can Teach Us – 100 years of the book “Fundamentals of Therapy”, online teaching presentation with Adam Blanning, in English, with translation to German, Spanish and Mandarin.

10月25・26日: 「症例から何を学ぶことができるのか — 『医術拡張の基礎』出版100年記念」講師: アダム・ブラニング。オンライン講義(英語)、ドイツ語・スペイン語・中国語への通訳付。参加申込:<https://medicalsection.goetheanum.ch/events>